第６学年　国語科学習指導案

１．単元名・題名　　物語を読んで，考えを深めよう
「海の命」

２．指導の考え方

○　子どもの実態

本学年の子どもたちは，大半が国語科の「読むこと」の学習を好んでいる。しかし，書き込みの際に，証拠の文を探したり，理由を考えたりすることが難しいと感じている子どももいる。これは，「読み方の種」を活用し，答えと証拠と理由をセットにして自分の読みをつくる指導が不十分であるためと考える。

これまでに，「カレーライス」の学習では，言葉や場面を比べる読み方で主人公の心情の変化を読み取ったり，「やまなし」の学習では，対比的に読む「読み方の種」で作者が伝えたかったことを読み取ったりする経験をしている。その中で，「読み方の種」を意識して活用しようとする姿は見られてきているが，自分の読みやその変容，読み確かめたことから考えたことを自分の言葉で書きまとめたりすることは，まだ十分ではない。

○　教材の価値・特質

本教材「海の命」は，父を亡くした主人公太一が，迷い，葛藤しながらも自分を取り巻く人物の考え方や生き方に学び，自己の生き方を確立していく姿が描かれている物語である。小学校で学習する最後の物語であり，卒業を前にした子どもたちが，自分の生き方を考える上で，大変意義深いものである。

文章構成の特質としては，全体が一行空きによって６つの場面から構成されており，常に一人前の漁師であることを追い求めてきた太一の姿がすべての場面を通して描かれている。その中で，５の場面は，これまでのおとうや与吉じいさとのかかわりとともに，クエをうたなかった太一の漁師としての考え方の転換点が描かれている。６の場面には，一行空きの後，迷い，葛藤の末，に太一が見出した生き方の姿が「太一は村一番の漁師であり続けた。」という文で描かれている。そこで，主人公太一の漁師としての考え方や生き方を読み取るために，一行空きの年月を考えさせたり，その間の太一の姿を考えさせたりしながら読むことができる。

文章表現の特質としては，作品の随所に「海の命」「村一番の漁師」などの象徴的な表現が見られ，これらの言葉の意味を解釈することは，太一の漁師としての考え方や生き方を確かにとらえることにつながる。また，太一の漁師としての考え方や生き方に影響を与えた人物として，おとう，与吉じいさ，母などの言動が描かれており，これらの人物設定の意図を考えることも，太一の漁師としての考え方や生き方をとらえる上で不可欠となってくる。

これらのことから，本教材は，人物設定の意図を考える「読み方の種」を用いて，象徴的に用いられている言葉の意味を考えることで,主人公太一の漁師としての考え方や生き方を読み取り，それを手がかりにして，自分の生き方についての考えを深めることに適した教材である。

○　指導にあたって

はじめに，単元名とリード文から，人物の生き方をもとに，自分の生き方について考えを深めるという学習の見通しをもたせ，主体的に「海の命」を読むことができるようにする。その後，題名と冒頭を読み，主人公太一の人物像をとらえ，「父を亡くした後，太一はどのように生きていくのだろう。」という読みのめあてを生み出す。

全文を読み通した後，節目ごとの太一の漁師としての考え方や生き方，それに影響を与えた人物等を確認し，予見を書きまとめる。そして，太一の漁師としての考え方や生き方を示す「本当の一人前の漁師」「村一番の漁師」の意味を考えることを読み深める視点として位置付け，学習計画を立てるようにする。

読み深め・読み確かめでは，太一と，太一の漁師としての考え方や生き方に影響を与えた人物とのかかわりを考える人物設定の意図を読む読み方や，呼称の変化に着目する「読み方の種」を用いて，「本当の一人前の漁師にはなれないのだ」「村一番の漁師であり続けた」の意味を考えさせて読みをつくり【書くこと①】，代表児の発表をもとに，人物設定の意図を読む読み方，呼称の変化に着目する「読み方の種」の活用や再書き込みなどの言語活動をもとに【交流】し，自分の読みの変容や習得・活用した読み方を書きまとめていくようにする【書くこと②】。

最後の読みのまとめ・読み方のまとめでは，題名「海の命」が象徴しているものについて考えさせ，題名「海の命」には，海と共存し，家族を大切にしながら命をつないでいくことで，仲間の漁師やその家族の命までも大切にする生き方を選んだ太一の考え方や生き方が象徴されていることをとらえさせる。そして，ことばの大切さに気付き，考え，発見し，確かにするために，習得・活用した人物設定の意図を読む，題名のはたらきを読むなどの「読み方の種」をまとめる。また，読み取った太一の生き方を自分はどう思うのか考えさせ，単元のまとめを行う。

３．単元の目標

○　海と共存し，家族を大切にしながら命をつないでいくことで，仲間の漁師やその家族の命までも大切にする生き方を選んだ太一の考え方や生き方を読み取り，自分の生き方について考えを深めることができる。

○　人物設定の意図を読む，題名のはたらきを読む「読み方の種」を習得・活用し，書く活動や交流活動を通してことばの大切さに気付き，考え，発見し，確かにすることができる。

４．学習計画（全 11 時間）

学習過程	時	主な学習活動と内容	「読み方の種」 ☆大切にする言葉	指導上の留意点・言語活動の工夫 ○【書くこと①】の観点と手だて △【交流】の観点と手だて □【書くこと②】の観点と手だて
単元の見通し	1	1　単元名とリード文から，学習の見通しをもつ。 (1)単元名の意味を考える。 ・「考え」とは，自分の生き方についての考えであること (2)リード文について考える。 ・様々な人物の生き方から自分の生き方に生かせそうなところを見出していく学習であること		○　今の自分やこれからの自分について，振り返らせ，生き方について自分の考えを書きまとめさせる。 △　既習学習を振り返らせ，単元名がもつ意味に気付かせる。 △　単元名とリード文から，物語に登場してくる人物の生き方を自分の生き方に重ねて読むことが必要な学習であることをつかませる。 □　登場人物の生き方を通して自分の生き方についての考えをどう深めていきたいのかという視点で書きまとめさせる。
		〔単元の見通し〕 人物の生き方をもとに，自分の生き方について考えを深めよう。		
読みのめあて	2	1　題名と冒頭をつないで読みのめあてを生み出す。 (1)題名について話し合う。 ・題名「海の命」は主題を表していること (2)冒頭を読む。 ・物語の場，時，登場人物等を確認すること ・主人公太一の人物像 おとうに対する強いあこがれ，尊敬の念 ・おとうの人物像 「海のめぐみだからなあ。」と言いながらも海で共存することより自分の欲を満たすことを選び，海で命を落とす。 (3)題名と冒頭をつなぎ，読みのめあてをつくる。	・題名のはたらきを読む ☆海の命 ・文末表現を読む ☆～漁師になる。 ☆～海に出るんだ。	○　題名から予想したことを書かせる。 ○　主人公太一の人物像が分かる文にサイドラインを引かせ，そこから太一の人物像を考えさせる。 ○　太一の漁師としての考え方や生き方に影響を与えた人物であるおとうの存在に気付かせるために，その人物像が分かる文にサイドラインを引かせる。 △　おとうのようになりたいという夢をもっていた太一が，おとうをなくした後どう生きていくのかという課題意識をもとに，読みのめあてを生み出すようにする。 □　読みのめあてを生み出すのに，どんな読み方を用いたのか振り返らせ，書きまとめさせる。
		〔読みのめあて〕 父を亡くした後，太一はどのように生きていくのだろう。		
予見	3 4	1　読みのめあてに沿って全文を読み通し，文章構成を把握し，予見を書きまとめる。 (1)全文を読み，難語句の意味を理解する。 (2)文章構成をつかむ。 ・１行空きで，６つの場面で構成されていること (3)登場人物の考え方や生き方，太	・人物設定の意図を読む ☆与吉じいさ 「千びきに一ぴき～」「ずっとこの海で生きていけるよ」「海に帰る」 ☆母 「～おそろしくて	○　文章構成をつかませ，各場面での太一の年齢，太一の漁師としての考え方や生き方を読み取らせる。 ○　太一の漁師としての考え方や生き方を象徴しているキーワードとして，「～の漁師」と書かれている言葉を探させ，それを用いて，

		一とのかかわりが分かる言動を抜き出す。 (4)太一の漁師としての考え方や生き方が象徴されたキーワードを探す。 (5)個人の予見を書きまとめる。	夜もねむれないよ～」 ☆瀬の主→大魚→海の命	予見を書きまとめさせる。
学習計画	5	1　個人の予見をもとに話し合い，予見を方向付ける。 ・太一の漁師としての考え方や生き方を象徴している「本当の一人前の漁師」と「村一番の漁師」のとらえ方	・言葉を比べて読むを読む ☆「本当の一人前の漁師」 ☆「～村一番の漁師であり続けた。」	△　予見を類別し，提案形式で話し合わせる。 △　予見の違いから，その根拠となった文や言葉に着目させる。
		〔予見〕 父を亡くした太一は，クエを追い求め，敵を討つことで父を越え，本当の一人前の漁師になりたいと思っていた。しかし，クエに出会うとうつことをやめた。そして，村一番の漁師であり続けた。		
		2　予見の共通点や相違点，曖昧な点等を明らかにし，読み確かめる計画を立てる。		□　太一の漁師としての考え方や生き方を読み確かめるために，予見の何を明らかにする必要があるか問いかけ，読み確かめの視点を生み出させる。
		〔学習計画〕 ①　クエをうたなかったことで，太一の漁師としての考え方はどのように変わったのだろうか。 ・太一が考える「本当の一人前の漁師」とはどんな漁師のことだろう。 ・「大魚はこの海の命だと思えた。」とはどういう意味だろう。 ②　「村一番の漁師であり続けた。」とは，どのような生き方と言えるのか。 ・何が「村一番」なのだろう。 ・「あり続けた」とはどういう意味なのだろう。		
読み深め・読み確かめ	6 7	クエをうたなかったわけを読み取り，太一の漁師としての考え方を読み確かめる。 1　問いかけをもとに書き込みの視点を設定し，前時に自分の読みを書きまとめる。 ・書き込みの視点 太一が考える「本当の一人前の漁師」とはどんな漁師のことか。 「大魚はこの海の命だと思えた。」とはどういう意味か。 2　書き込みをもとに話し合う。 3　話し合ったことをもとに，「今日の学習で」に書きまとめる。 太一は，クエをうつことで，父の敵をとり，父を越えることこそが「本当の一人前の漁師」と考えていた。しかし，悠然として動じないクエの姿を見たとき，母の存在や与吉じいさが教えてくれた海と共存する考え方の大切さに気付いた。漁師として大切なことを教えてくれたクエに父の姿を重ね，そのクエのことを海のすべての生き物の命の象徴と考えることで，海と共存し，	・場面をつないで読む ☆「本当の一人前の漁師」 ・人物設定の意図を読む ☆与吉じいさ 「千びきに一ぴき～」 ☆母 「～おそろしくて夜もねむれないよ～」 ・呼称の変化を読む ☆瀬の主→大魚→海の命	○　漁師としての考え方が変わる前の太一の思いが分かる文，どう変わったのかが分かる文にサイドラインを引かせることで転換点を意識させる。 ○　４の場面までの太一の姿や太一の「夢」の中身を考えさせることで，「本当の一人前の漁師」の意味を書き込ませる。 ○　何によって太一は考え方を変えたのか投げかけ，転換点で，太一の漁師としての考え方に影響を与えた人物の言動についても書き込ませる。 ○　呼称の変化や，瀬の主を「おとう」と思ったことに着目させ，「大魚」や「海の命」が何を指しているのか考えさせ，「大魚はこの海の命だと思えた。」とはどういう意味か書き込ませる。 ○　書き込んだことをもとに，クエをうたなかったことで，太一の漁師としての考え方はどのように変わったのか書きまとめさせる。 △　カルテをもとに，意図的な指名を取り入れながら話し合わせる。

		未来に命をつないでいく考え方に変えたのだった。		△　話し合いをもとに，「海の命」とは何を表しているのか考えさせ，再度書き込み，交流させる。 □　読み確かめたこと，身に付けた読み方，太一の考え方から自分の生き方に生かせそうなところという視点で，「今日の学習で」を書きまとめさせる。
	8 9 **【一組本時9／11】**	「村一番の漁師であり続けた。」とはどのような生き方と言えるのか読み取り，太一の漁師としての考え方や生き方を読み確かめる。 1　問いかけをもとに書き込みの視点を設定し，前時に自分の読みを書きまとめる。 ・書き込みの視点 何が「村一番」なのか。 「あり続けた」とはどういう意味なのか。 2　書き込みをもとに話し合う。 3　話し合ったことをもとに，「今日の学習で」に書きまとめる。 「村一番の漁師であり続けた」が意味する太一の漁師としての生き方は，海と共存し，自分の家族を大切にしていくことで，仲間の漁師やその家族の命までも大切にすることにつながった生き方だった。仲間の漁師たちは太一の生き方を「村一番」だと尊敬し，自分たちの手本とした。太一の生き方は，太一が住む漁師村全体を豊かにするものだった。	・人物設定の意図を読む ☆与吉じいさ 「千びきに一ぴき～」 ☆母 「～おそろしくて夜もねむれないよ～」 「～おだやかで満ち足りた，美しいおばあさんに～」 ☆太一の家族 「村のむすめとけっこんし，子どもを四人育てた。」 「男と女と二人ずつ」 ・ことばを比べて読む ☆「村一番の漁師であり続けた。」	○　人物設定に着目させたり，「生涯だれにも話さなかった」ことからとらえられる太一の生き方を考えさせたりすることで，何が「村一番」なのか書き込ませる。 ○　「あり続け」るには何が必要か考えさせることで，「あり続けた」とはどういう意味なのか書き込ませる。 ○　書き込んだことをもとに，「村一番の漁師であり続けた。」とはどのような生き方と言えるのか書きまとめさせる。 △　カルテをもとに，意図的な指名を取り入れながら話し合わせる。 △　話し合いをもとに，「あり続けた」とはどういう意味なのか考えさせ，再度書き込み，交流させる。 □　読み確かめたこと，身に付けた読み方，太一の生き方から自分の生き方に生かせそうなところという視点で，「今日の学習で」を書きまとめさせる。
読み・読み方のまとめ	10	1　読みのまとめをする。 (1)読み確かめたことをもとに，題名が意味するものを考え，話し合う。 (2)太一の漁師としての考え方や生き方で，自分の生き方に生かせそうなところはないか考え，書きまとめる。 2　「読み方の種」のまとめをする。 ・題名のはたらきを読む読み方 ・人物設定の意図を読む読み方 ・呼称の変化を読む読み方 〔読みのまとめ〕 題名「海の命」には，海と共存し，家族を大切にしながら命をつないでいくことで，仲間の漁師やその家族の命までも大切にする生き方を選んだ太一の考え方や生き方が象徴されている。太一は，悩みながらも常に周りと共存することを大切に，よりよい生き方を選択していったと言えるのではないだろうか。そんな生き方ができる太一は，とてもすばらしいと思った。	・題名のはたらきを読む ☆海の命	○　学習の流れ図や読み取りノートをもとに学習を振り返らせ，題名が意味するものについて書き込ませる。 △　「海の命」を読んで，太一の生き方から学んだところはないか考えさせ，交流させる。 □　身に付いた読み方と読み深めたこと，太一の生き方から学ぶところを書きまとめさせる。
関連	11	1　様々な考え方や生き方にふれることができる本を読む。		

第６学年　組　　（公開授業①）

５．本時（９／11）読み深め・読み確かめ

６．本時の目標

○　「村一番の漁師であり続けた。」をもとに，海と共存し，自分の家族を大切にしていくことで，仲間の漁師やその家族の命までも大切にすることにつながった太一の漁師としての生き方を読み確かめることができる。

○　複合語を読む，人物設定の意図を読む「読み方の種」を習得・活用し，書く活動や交流活動を通して，「村一番の漁師であり続けた。」のことばがもつ大切さに気付き，考え，発見し，確かにすることができる。

７．本時指導の考え方

前時に，子どもたちは，６の場面に登場している人物に関する叙述に着目し，「村一番の漁師」とは，何が村一番なのか，「あり続けた」とはどういう意味なのかという２つの問いかけをもとに書き込みをし，「村一番の漁師であり続けた。」とは，どのような生き方と言えるのか考え，自分の読みをつくっている。

本時は，書き込みをもとに，「村一番の漁師であり続けた。」とはどのような生き方と言えるのか読み確かめ，自分の生き方に生かせそうなところを見出す学習である。

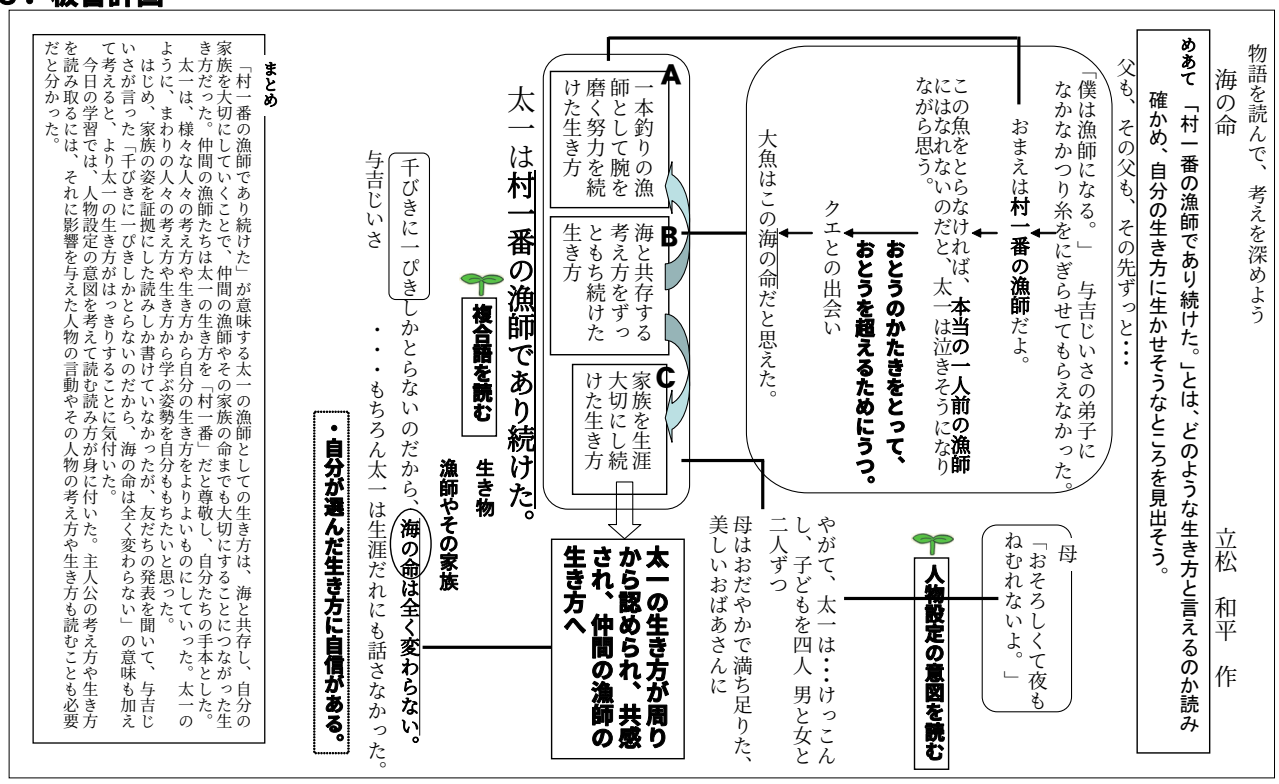
そのために，代表児の発表をもとに，話し合いを展開していく。代表児の読みとしては，Ａ：一本釣りの漁師として腕を磨く努力を続けた生き方，Ｂ：海と共存する考え方をずっともち続けた生き方，Ｃ：家族を生涯大切にし続けた生き方といったものが予想される。そこで，まず，「村一番の漁師」のとらえ方を，どこを証拠として，どのような理由で，何が「村一番」だととらえたのか，話し合わせていく。

次に，「あり続けた」とはどういう意味なのか交流させる。この書き込みの視点については，初めの書き込みの段階では，自分の読みを十分につくることができていないと考えられる。そこで，「村一番の漁師であり続けた。」を「村一番の漁師になった。」と再度比べさせたり，「村一番」とは誰の視点で言っていることばなのか問い直して考えさせたり，「海の命は全く変わらない」の意味を考えさせたりすることで，「あり続けた。」とはどういう意味なのか再度書き込みをさせて交流させる。その後，「生涯だれにも話さなかった。」ことから分かる太一の漁師としての生き方を発表させ，全体に広げ，「村一番の漁師であり続けた」が意味する太一の漁師としての生き方をさらに確かにしていきたい。

最後に，はじめの読みと比べてどんなところが深まったのか，どんな読み方の種を習得・活用することができたか，太一の漁師としての生き方から自分の生き方に生かせそうなところはどこかという３つの観点で「今日の学習で」に書きまとめる。

考えのまとまらない子どもには，板書を使って読み確かめたことや活用した「読み方の種」等について話をさせ，それをもとにして書きまとめるよう，言葉かけをしていく。

８．板書計画



９．本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点・言語活動の工夫 ○書くこと① △交流 □書くこと② ☆「読み方の種」
1　本時のめあてを確認する。 (1)前時までを想起する【書くこと①】。	※　学習の流れ図をもとに，前時までの学習を振り返らせる。 ○　書き込みの視点，書き込んだことを確認させる。
〔書き込みの視点〕 ①　「村一番の漁師」とは，何が村一番なのか。 ②　「～あり続けた」とはどういう意味なのか。	〔見通しのもたせ方〕 →・与吉じいさの「おまえは村一番の漁師だよ。」と比べて →・６の場面に登場している人物の姿に着目して →・「生涯だれにも話さなかった」ことに着目して →・「あり続け」るためには，何が必要か。
(2)本時のめあてを確認する。	※　本時の学習に見通しをもたせるために，めあてと終末の「今日の学習で」のまとめ方を確認させる。
〔学習のめあて〕 「村一番の漁師であり続けた。」とは，どのような生き方と言えるのか読み確かめ，自分の生き方に生かせそうなところを見出そう。	
2　書き込みをもとに話し合う。 (1)代表児の発表をもとに，自分の読みを確認する。 〔予想される読み〕 A：一本釣りの漁師として腕を磨く努力を続けた生き方 B：海と共存する考え方をずっともち続けた生き方 C：家族を生涯大切にし続けた生き方 (2)「村一番の漁師」とは何が「村一番」なのか話し合う。 (3)「あり続けた。」とはどういう意味なのか，再度書き込みをし，交流する【交流】。 ①「村一番の漁師」とは， 腕前だけではなく，海と共存し，家族を大切にしながら生きていくことを大切に思う気持ちも村一番だということ。 ②「～あり続けた。」とは， ①で読み取った漁師としての考え方をずっと長い間黙々と続けた姿。仲間の漁師たちは，その太一の姿に感銘を受け，「村一番」だと賞賛し，価値あるものだととらえた。 (4)「村一番の漁師であり続けた。」とは，どのような生き方と言えるのか話し合う。 3　読み確かめたことと読み方を書きまとめる【書くこと②】。 ・読み確かめた太一の漁師としての生き方 ・習得・活用した「読み方の種」 ・自分の生き方に生かせそうなところ	△　証拠と理由と答えの３点セットを意識した発表の仕方を確認させる。 △　書き込みを分析し，意図的に指名していきながら，証拠や理由を確認していくようにする。 ☆ 人物設定の意図を読む 与吉じいさ「千びきに一ぴき～」 母「～おそろしくて夜もねむれないよ～」 「～おだやかで満ち足りた，美しいおばあさんに～」 太一の家族 「村のむすめとけっこんし，子どもを四人育てた。」 「男と女と二人ずつ」 ☆ 複合語を読む　「～あり続けた。」 △　「村一番の漁師になった。」と再度比べさせたり，「村一番」とは誰の視点で言っていることばなのか問い直して考えさせたり，「海の命は全く変わらない」の意味を考えさせたりすることで，「あり続けた。」についてさらに考えさせ，再度書き込みをさせる。 △　代表児の発表に戻り，それぞれの読みの相関関係を考えさせる。 □　書きまとめる前に，板書を使って本時の学習のまとめをさせた後に「今日の学習で」に書きまとめさせる。
〔学習のまとめ〕 「村一番の漁師であり続けた」が意味する太一の漁師としての生き方は，海と共存し，自分の家族を大切にしていくことで，仲間の漁師やその家族の命までも大切にすることにつながった生き方だった。 太一は，様々な人々の考え方や生き方から自分の生き方をよりよいものにしていった。太一のように，まわりの人々の考え方や生き方から学ぶ姿勢を自分ももちたいと思った。 私は，はじめ，家族の姿を証拠にした読みしか書けていなかったが，友だちの発表を聞いて，与吉じいさが言った「千びきに一ぴきしかとらないのだから，海の命は全く変わらない」の意味も加えて考えると，より太一の生き方がはっきりすることに気付いた。 今日の学習では，人物設定の意図を考えて読む読み方が身に付いた。主人公の考え方や生き方を読み取るには，それに影響を与えた人物の言動やその人物の考え方や生き方も読むことも必要だと分かった。	